

# 徳島県社会教育委員会議からの提言

— 人と人とのつながりを再構築し、  
尊厳と慈愛に満ちた活力ある地域社会を創ろう！ —



## 提言の構成

1. はじめに
  2. 課題の整理
  3. 提言
    - ①家庭への提言
    - ②学校への提言
    - ③地域社会への提言
    - ④行政への提言
  4. おわりに
    - 附① 領域別提言図
    - 附② 審議の経過
- 参考資料 社会教育委員会議における意見の概要

## キーワード

人と人とのつながり 地域社会の再構築  
家庭・学校への支援 地域コーディネーターの養成  
県・市町村行政の連携 住民の末端にまで届く情報提供  
意欲ある行政職員の養成

徳島県社会教育委員会議  
平成21年3月31日

## 1. はじめに

わが国は現在、未曾有の転換点に直面している。少子高齢化・情報化・国際化・金融雇用危機など、社会の基盤を揺るがす変動の波にさらされ、今後の方向を見出しがたい状況のただなかにある。伝統的な地域社会は分解し、かつてのような人々の強い結びつきは崩壊したかに見える。一方、家庭内の人間関係も希薄となり、様々な病理現象を引き起こしている。人々は、価値観の急速な拡散と社会変動の激しさに動揺し、アイデンティティの置き所を見失いつつある。確固たる人生観を確立し、次世代に対して自信を持って文化を伝達し、健全に次世代を育成する環境が消失しつつあるのが現状であろう。

こうした危機的状況は、本県のみならず、全国的に蔓延して、我が国社会の構造的な矛盾となっている。しかし、それらを根本的に解決する具体的な方策は、未だ発見されていない。将来を見通しても、解決どころかとりとめのない不安ばかりが増大しつつあるかのように見える。

平成 18 年 12 月 22 日に、教育基本法が戦後およそ 60 年を経て全面的に改正（公布・施行）された背景には、わが国社会が直面するこうした現状への深い憂慮があったと言って過言ではない。

改正教育基本法は、周知のように、第 3 条に生涯学習の理念を明記し、我々社会教育・生涯学習に強い関心を抱く者にとって、大きな励ましを与えてくれた。改正教育基本法では、それと共に、第 10 条で家庭教育、第 12 条で社会教育、第 13 条で学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力を規定し、社会教育・生涯学習行政の基本的方向性を明示した。このことの意義は極めて大きいと言わねばならない。

社会教育・生涯学習行政は、これを起点に目覚ましい展開を示した。教育基本法改正の翌年、中央教育審議会は中間報告「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策」（平成 19 年 1 月 30 日）を行い、国民の学習活動を促進する具体的方策と共に、家庭・地域の教育力の向上に関する具体的方策を提示した。

これらの動向をうけて、平成 20 年 6 月 11 日、社会教育法・図書館法・博物館法の同時改正（公布・施行）がなされ、学習成果の活用その他、従前の行政施策を一新させる可能性を秘めた内容が盛り込まれた。

法的な整備に加えて、放課後子どもプラン推進事業、「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業、地域における家庭教育支援基盤形成事業など、社会状況に即応した具体的な諸施策が推進され、平成 20 年度からは学校支援地域本部事業が立ち上がることとなった。

本県においても、こうした国の施策を導入しつつ、「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」に基づき、「“まなびや” とくしま」の実現を図るための諸事業が推進されつつある。徳島はぐくみプラン、放課後子ども教室、スクールガード、コミュニティスクール等は、これらの代表である。平成 20 年 6 月 1 日には、「まなびーあ徳島（徳島県立総合大学校）」

が発足し、従前の行政区分を超えた総合的な取り組みが進展しつつある。また、同年 10 月 28 日には、「徳島県教育振興計画」が策定され、「基本方針 5」として、「みんなが学べる生涯学習社会の実現」が謳われた。

本社会教育委員会議は、こうした諸状況が進行する中、平成 19 年 7 月 1 日、前会議の後を承け、委員を大幅に交替して発足した。以来、2 年間にわたる真摯にして濃密な議論を経て、この度、その成果をここに公表するに至った。

地方自治体の財政は、国と同様、危機的状況にあることは周知の事実であり、我々も十分にその現実を承知している。しかしながら、次代を担う子どもたちを含めて人々が、将来に希望の持てる国や地域社会を築くことは、我々現役世代に課せられた究極の使命である。今こそ家庭・学校・地域社会・行政によるネットワークを構築し、課題解決に向けた取り組みを開始する必要がある。

社会教育・生涯学習にかかる行政当局は無論のこと、知事部局、各種教育機関、諸団体、一般県民におかれては、提言の意図を汲み取り、地域社会の再構築と県民の社会教育・生涯学習活動の一層の拡充に向けた施策、事業への全面的な支援をお願いする次第である。

## 2. 課題の整理

2 年にわたる活発な審議の中で様々な意見が出された。それらを含めて 5 つの項目に分類し、諸課題を整理しておこう（参考資料「意見の概要」を参照されたい）。

### ①子どもの課題

- ・コミュニケーション能力の不足（人との関わりや言葉の希薄さ）
- ・地域社会への帰属意識の喪失
- ・学習意欲や規範意識の低下
- ・自主的活動経験の希薄さ（周囲のおぜん立てがなくては活動できない受動性）
- ・集団遊びの機会の喪失（ゲーム等によるバーチャル体験の過剰さ）
- ・職業と向き合う環境・機会の不足

### ②家庭の課題

- ・しつけや生活文化（ならわし）の崩壊
- ・家族の結びつきの低下（孤食・個食化など家族による共有時間の不足）
- ・隣人及び地域社会からの孤立化
- ・教育熱心な家庭と無関心な家庭の二極化の進行
- ・児童虐待や DV などの病理・犯罪の多発
- ・親自身の再教育・自己教育の必要性

### ③学校の課題

- ・地域社会との交流や結びつきの希薄さ（学校の孤立化）
- ・教職員の多忙さとストレスの増大
- ・各種ボランティア受入れのための校内環境の整備
- ・安全重視による閉鎖的体質
- ・学習意欲を含めた学力の再興
- ・異年齢交流等他者との関わり方を習得する機会の不足
- ・異文化に向き合う共生教育（国際化）の普及

### ④地域社会の課題

- ・地域の人々が日常的に結びあう機会の不足（共同体の再構築）
- ・規範意識の向上あるいは再構築
- ・地域全体で家庭や学校を支援するという共通意識の構築
- ・地域貢献活動及び学習成果の活用機会の不足
- ・ボランティア等人材を組織化するシステムの整備
- ・組織力を有し、連携の中心となるコーディネーターの養成と活用
- ・人づくりと産業おこしの両立（人間的価値と経済的価値の調和）
- ・全年齢層が参加できる地域行事の開発
- ・伝統行事や祭りによる地域の結びつきの再興

### ⑤行政の課題

- ・施策や事業に必要な予算の不足
- ・地域社会の再構築を中心課題とした社会教育・生涯学習行政の取り組み
- ・社会教育・生涯学習行政と他の部局との連携（総合行政としての取り組み）
- ・地域活動の実態に対する理解不足
- ・事業実施に伴う地域住民に対する事前説明の不備
- ・県・市町村・地域ボランティアの情報伝達の不備
- ・事業実施状況を検証するシステムの不備
- ・予算のかからない事業を開発・工夫するという課題
- ・行政主導からサポート・アシストへのスタンスの転換
- ・指導者養成プログラムの活性化並びに地域的偏在の解消
- ・市町村社会教育・生涯学習行政との連携の強化
- ・地域の人々を結びつけると共に、地域の将来ビジョンを描ける行政職員の養成
- ・社会教育・生涯学習に対して理解と意欲を持った行政職員の養成
- ・専門職（社会教育主事・学芸員・司書等）の地域活動への活用

- ・時代のニーズに合った（地域に不可欠な）公民館活動

### 3. 提言

前項で分類整理した諸課題を踏まえて、我々は、家庭・学校・地域社会・行政のそれぞれに対して、以下のような提言を行うこととした。とりわけ行政当局におかれては、各提言の意義を吟味・検討すると共に、施策化・事業化を含めた提言の実現に向けて具体的な行動に着手されるよう望むものである。

#### ①家庭への提言

☆隣人や地域社会との接点を広げ、お互いに助け合いながら、決して孤立しないように人間関係を広げてほしい。

☆子どもも大人も成長し、心身ともに豊かな生活を享受する権利がある。それらをお互いに尊重して、尊厳と慈愛に満ちた社会の再構築に貢献してほしい。

- ・大人は子どものしつけについて自信を持って対応してほしい。
- ・食事等家庭内での共有時間を増やすことを心がけながら、家族の絆を強めてほしい。
- ・地域の伝統行事や祭り、文化や自然環境などに関心をもつと共に、学び直して、子どもに伝えてほしい。
- ・バーチャルで個人的な体験に偏りがちな子どもの生活や遊びを見直すと共に、子ども同士並びに異世代間の人間関係の再構築を図ってほしい。
- ・様々な機会を活用した生涯にわたる学びを通して、それぞれのかけがえのない人生の実現に向けてチャレンジしてほしい。
- ・学校支援地域本部事業などを通して、学校との良好な関係を築いてほしい。

#### ②学校への提言

☆学校は活力ある地域社会を構築する中心的施設であるという自覚を持ち、安全性に留意しつつも、日常的な交流に富んだ開放的な学校づくりに取り組んでほしい。

- ・PTAのOB・OGや地域ボランティアなど、学校を支援したいという人々を幅広く組織し、適切な役割を提供して、「地域でつくる活力ある学校」という次元にまで高めてほしい。学校支援本部事業などの施策を積極的に活用してほしい。
- ・個々の先生が孤立しないよう、周囲の支援を受け入れながら、先生の負担を軽減する

と共に、子どもの教育活動に専念できる環境をつくってほしい。

- ・地域社会のサポートを得ながら、子どもの学習意欲を高める工夫を講じて、学力の向上に努めてほしい。
- ・公民館等の社会教育施設を活用して、変化と刺激に富んだ教育実践を実現してほしい。
- ・地域の伝統行事や祭り、文化や自然環境を発掘し、地域学習に積極的に導入してほしい。またそれらを通して、異年齢集団活動を活性化し、人間関係を築く能力に乏しい孤立しがちな子どもたちへの適切な支援を実現してほしい。
- ・在留外国人との体験学習や、身近な話題での語り合いなど、国際的視野の育成や交流の機会を増やしてほしい。

### ③地域社会への提言

☆地域社会の再構築という課題を共有し、様々なアイデアを駆使して難問の解決に共同して取り組んでほしい。

☆規範意識の低下を食い止め、向上させると共に、尊厳と慈愛に満ちた活力ある地域社会を再構築してほしい。

- ・家庭や学校、地域の諸問題を認識する努力を怠らず、問題解決に向けた適切かつ柔軟な組織づくりを進めてほしい。
- ・地域全体で、問題状況に直面している子ども・家庭・学校を支援してほしい。
- ・公民館・図書館・博物館等で学んだ内容を活用する機会を地域全体で開発してほしい。
- ・地域の伝統行事や祭り、あるいは昔遊びを積極的に活用するなど、全年齢層が楽しく参加できるイベントを開発して実践してほしい。
- ・地域に固有の自然・文化的資源を新しい目で再発見し、それらを子どもたちに伝承すると共に、地域の誇りを再構築してほしい。
- ・新旧住民の交流を活発化し、地域課題に共に取り組む仕組みを立ち上げてほしい。
- ・ボランティアの自主性を尊重しつつも、ボランティア同士の交流を通してネットワークが広がる取り組みを推進してほしい。
- ・学校支援地域本部事業などの行政の取り組みを理解し、積極的に支援してほしい。
- ・地域の人的・物的資源を有効に組織化できるボランティア・コーディネーターを発見・養成・活用してほしい。

#### ④行政への提言

☆財政的諸問題を克服する意欲を堅持し、実現可能な諸施策・諸事業を開発・推進して、地域社会の再構築という課題に果敢に取り組んでほしい。

- ・市町村社会教育・生涯学習行政や各種社会教育・生涯学習施設が地域づくりにどのように関与しているか、また、地域活動やボランティア活動がどのようになされているかの実態について調査・研究し、施策の立案に生かしてほしい。
- ・施策や事業の明確な目標設定を行い、成果を点検・評価して次の計画につなげてほしい。
- ・首長部局等他の行政部門との連携をさらに深化・拡充し、総合行政としての取り組みを発展させてほしい。
- ・市町村社会教育・生涯学習行政との連携を強化し、情報を即時に共有して、共同して問題解決に従事できるシステムを構築してほしい。
- ・県・市町村・ボランティアグループ間の情報伝達がスムーズに図れるシステムを開発・実現してほしい。
- ・行政施策を推進する前に、その内容が地域住民へ十分伝わるよう、説明会などの予備的対応を実行してほしい。
- ・行政のリーダーシップを発揮する中で、地域ボランティアとの積極的な連携を促進し、実行可能な事業を開発・推進してほしい。
- ・学校支援地域本部事業を県下に拡大し、地域全体で学校教育を支援する体制を構築してほしい。
- ・公民館・博物館・図書館等社会教育施設の実態を把握し、施設間ネットワークを強化すると共に、時代やニーズに合った地域社会に不可欠な施設として存在感をアピールできるように、各種の支援策を実施してほしい。
- ・学習者の学習の自由を尊重しつつ、公民館・博物館・図書館等で学習した成果を活用する機会を積極的に開発してほしい。
- ・既存の指導者養成プログラムの内容や方法等を見直し、地域の再構築という課題に対して実践的に主導できる人材（ボランティア・コーディネーター）の養成・活用に努めてほしい。
- ・社会教育・生涯学習に対して理解と意欲のある行政職員を確保・養成してほしい。
- ・社会教育主事や学芸員、司書などの専門職が地域活動に参加できるような環境を整備すると共に、専門職の活用を図ってほしい。
- ・地方行政を有効に実施するために、国の施策との連動や国への進言・提言など、躊躇なく積極的に進めてほしい。

- ・本提言を具体化するための組織づくりに着手すると共に、ターゲット（領域）に即応した草の根にまで着実に届く広報活動を開発して実施してほしい。

#### 4. おわりに

2年間にわたる議論によって、本県における地域社会並びに社会教育・生涯学習の現状と課題を我々なりに把握し、今後の方向性に対する一定の指針を見出すことができた。この度領域別の提言という形で一応のまとめをなしたことは、委員としての責任の一端を果たしたという意味で、何ほどかの安堵を覚えざるを得ない。

しかしながら、課題は数多く、またいずれをみても深刻であり、問題解決は容易ではない。着実に粘り強い取り組みが不可欠である。様々な領域で、独自に創意をもって取り組むのみならず、問題解決のためのネットワークを構築する必要がある。家庭・学校・地域社会、そして行政が連動して機動的に対応できる仕組みを開発する必要がある。

提言に対する取り組みが実現するためには、その前提としてすべての県民に関心をもつていただくことが肝要である。加えて、県内のすべての教育行政関係当局、教育機関、諸団体が自分の問題として認識する必要がある。まずはこの提言が草の根にまで届き、ご一読の上、それぞれのレベルで何ができるのか検討して下さることを望みたい。

2年という期間は、決して長くない。真摯な議論を重ねたのではあるが、個々の論点を十分に深めたとはまでは言えない。加えて、任期中にし残した課題もある。地域・学校・家庭・企業・各種施設等に対する実態把握のためのアンケート調査などはその一例である。それらは、次期社会教育委員会議に委ねるほかないが、今後、列挙した我々の提言がどのように具現化されてゆくのか、大きな期待をもって見守ってゆきたいと考える。

都合6回の会議の開催にあたっては、生涯学習政策課をはじめ県教育委員会の皆様には大変お世話になった。その都度ご用意いただいた諸資料は適切かつ膨大であり、国や県の施策の全容を把握するのに役立った。社会教育委員一同、記して感謝申し上げたい。

附① 領域別提言図

人と人とのつながりを再構築し、  
尊厳と慈愛に満ちた活力ある地域社会を創ろう！

家庭への提言

☆隣人や地域社会との接点を広げ、お互いに助け合いながら、決して孤立しないように人間関係を広げてほしい。

☆子どもも大人も成長し、心身ともに豊かな生活を享受する権利がある。それらをお互いに尊重して、尊厳と慈愛に満ちた社会の再構築に貢献してほしい。

- ・大人は子どものしつけについて自信を持って対応してほしい。
- ・食事等家庭内での共有時間を増やすことを心がけながら、家族の絆を強めてほしい。
- ・地域の伝統行事や祭り、文化や自然環境などに関心をもつと共に、学び直して、子どもに伝えてほしい。
- ・バーチャルで個人的な体験に偏りがちな子どもの生活や遊びを見直すと共に、子ども同士並びに異世代間の人間関係の再構築を図ってほしい。
- ・様々な機会を活用した生涯にわたる学びを通して、それぞれのかけがえのない人生の実現に向けてチャレンジしてほしい。
- ・学校支援地域本部事業などを通して、学校との良好な関係を築いてほしい。

人と人とのつながりを再構築し、  
尊厳と慈愛に満ちた活力ある地域社会を創ろう！

#### 学校への提言

☆学校は活力ある地域社会を構築する中心的施設であるという自覚を持ち、安全性に留意しつつも、日常的な交流に富んだ開放的な学校作りに取り組んでほしい。

- ・PTAのOB・OGや地域ボランティアなど、学校を支援したいという人々を幅広く組織し、適切な役割を提供して、地域でつくる活力ある学校という次元にまで高めてほしい。学校支援本部事業などの施策を積極的に活用してほしい。
- ・個々の学校や先生たちが孤立しないよう、周囲の支援を受け入れながら、先生方の負担を軽減すると共に、子どもの教育活動に専念できる環境をつくってほしい。
- ・地域社会のサポートも得ながら、子どもの学習意欲を高める工夫を講じて、学力の向上に努めてほしい。
- ・公民館等の社会教育施設を活用して、変化と刺激に富んだ教育実践を実現してほしい。
- ・地域の祭りや伝承・行事・文化を発掘し、それらを地域学習に積極的に導入してほしい。またそれらを通して、異年齢集団活動を活性化し、人間関係を築く能力に乏しい孤立しがちな子どもたちへの適切な支援を実現してほしい。
- ・在留外国人との体験学習や、身近な話題での語り合いなど、国際的視野の育成や交流の機会を増やしてほしい。

人と人とのつながりを再構築し、  
尊厳と慈愛に満ちた活力ある地域社会を創ろう！

### 地域社会への提言

- ☆地域社会の再構築という課題を共有し、様々なアイデアを駆使して、難問の解決に取り組んでほしい。
- ☆規範意識の低下を食い止め、向上させると共に、尊厳と慈愛に満ちた活力ある地域社会を再構築してほしい。

- ・家庭や学校、地域の諸問題を客観的に認識する努力を怠らず、問題解決に向けた適切かつ柔軟な組織づくりを進めてほしい。
- ・地域全体で、問題状況に直面している子ども・家庭・学校を支援してほしい。
- ・公民館・図書館・博物館等で学んだ内容を活用する機会を地域全体で開発してほしい。
- ・地域の伝統行事や祭り、あるいは昔遊びを積極的に活用するなど、全年齢層が楽しく参加できるイベントを開発して実践してほしい。
- ・地域に固有の自然資源・文化資源を新しい目で再発見し、それらを子どもたちに伝承すると共に、地域の誇りを再構築してほしい。
- ・新旧住民の交流を活発化し、地域課題に共に取り組む仕組みを立ち上げてほしい。
- ・ボランティアの自主性を尊重しつつも、ボランティア同士の交流を通してネットワークが広がる取り組みを推進してほしい。
- ・学校支援地域本部事業などの行政の取り組みを理解し、積極的に支援してほしい。
- ・地域の人的・物的資源を有効に組織化できるボランティア・コーディネーターを発見・養成・活用してほしい。

人と人とのつながりを再構築し、  
尊厳と慈愛に満ちた活力ある地域社会を創ろう！

### 行政への提言

☆財政的諸問題を克服する意欲を堅持し、実現可能な諸施策・諸事業を開発・推進して、地域社会の再構築という課題に果敢に取り組んでほしい。

- ・市町村社会教育・生涯学習行政や各種社会教育・生涯学習施設が地域づくりにどのように関与しているか、また、地域活動やボランティア活動がどのようになされているかの実態について調査・研究し、施策の立案に生かしてほしい。
- ・施策や事業の明確な目標設定を行い、成果を点検・評価して次の計画につなげてほしい。
- ・首長部局等の行政部門との連携をさらに深化・拡充し、総合行政としての取り組みを発展させほしい。
- ・市町村社会教育・生涯学習行政との連携を強化し、情報を即時に共有して、共同して問題解決に従事できるシステムを構築してほしい。
- ・県・市町村・ボランティアグループ間の情報伝達がスムーズに図れるシステムを開発・実現してほしい。
- ・行政施策を推進する前に、その内容が地域住民へ十分伝わるよう、説明会などの予備的対応を実行してほしい。
- ・行政のリーダーシップを発揮する中で、地域ボランティアとの積極的な連携を促進し、実行可能な事業を開発・推進してほしい。
- ・学校支援地域本部事業を県下に拡大し、地域全体で学校教育を支援する体制を構築してほしい。
- ・公民館・博物館・図書館等社会教育施設の実態を把握し、施設間ネットワークを強化すると共に、時代やニーズに合った地域社会に不可欠な施設として存在感をアピールできるよう、各種の支援策を実施してほしい。
- ・学習者の学習の自由を尊重しつつ、公民館・博物館・図書館等で学習した成果を活用する機会を積極的に開発してほしい。
- ・既存の指導者養成プログラムの内容や方法等を見直し、地域の再構築という課題に対して実践的に主導できる人材（ボランティア・コーディネーター）の養成・活用に努めてほしい。
- ・社会教育・生涯学習に対して理解と意欲のある行政職員を確保・養成してほしい。
- ・社会教育主事や学芸員、司書などの専門職が地域活動に参加できるような環境を整備すると共に、専門職の活用を図ってほしい。
- ・地方行政を有効に実施するために、国の施策との連動や国への進言・提言など、躊躇なく積極的に進めてほしい。
- ・本提言を具体化するための組織づくりに着手すると共に、ターゲット（領域）に即応した草の根にまで届く広報活動を開発して実施してほしい。

## ② 審議の経過

審議の経過は次の通りである。

第1回	平成19年9月14日(金)	午後1時半～午後4時	県庁特別大会議室
第2回	平成19年12月18日(火)	午後1時半～午後4時	同上
第3回	平成20年3月11日(火)	午後1時半～午後4時	同上
第4回	平成20年6月30日(月)	午後1時半～午後4時	同上
第5回	平成20年12月8日(月)	午後1時半～午後4時	同上
第6回	平成21年3月17日(火)	午後1時半～午後3時30分	徳島県婦人会館

## 参考資料

会議の中で提出された主要な意見を整理して掲載する。(以降の意見を整理して掲載)

(子ども)

- ・現在の子どもたちは、自分から主体的に行動することを知らない。
- ・最近、あいさつのできない子どもが多い。親子間の会話も少ない。
- ・最近の子どもには、大人に好かれる優等生が多い。昔のガキ大将の時代とは大きな相違である。
- ・現在の子どもはコミュニケーション不足、言葉の数が非常に少ないため、集団生活に支障を来す。
- ・思春期の子どもは、学校でも家庭でも上から押さえつけられているような感覚を持っている。
- ・子どもたちには、人とコミュニケーションを図りながら遊びをつくり上げていく能力が大切。
- ・子どもたちが自分で考え、何かをできる人間に育てるプランがほしい。
- ・コミュニケーションをうまく図り、思いやりの心を持つ子どもたちを育てていくことが必要。
- ・行事に参画することで、協力する力、協調性、向上心、おもいやりの心などが育まれる。
- ・子どもたちが早い時期に好きなものを見つけ、将来の職業に繋がるための方策を考えたい。
- ・最近の若者は、地域の共同体に対する帰属意識がなくなっているように思う。
- ・よりよい成長、発展のためには、お互いに人間として多くの関わりを持つことが大切である。
- ・何が問題行動なのか、何が時代の流れの中で変わったのかを見極めないと、「最近の若い者は」という一元化論になる。

(家庭)

- ・子どもの教育に熱心な家庭と、全く無関心な家庭との二極化が進んでいる。
- ・ブックスタート事業を始めているが、ゼロ歳児は親から聞くことで心地よさを味わい、成長するに従い、聞くことから見て、心地よさを味わう。
- ・読み聞かせの活動は、子どもたちの心に花の種をまく活動、将来自分の子どもに本を読んでもあげることができたときに、活動の花が咲く。
- ・子どもを育てること、イコール親を育てることだと感じている。

(学校)

- ・学校は、安全管理面を優先するため、地域住民には開かれていないと思う。
- ・中高生、特にクラブ活動をしていない生徒への支援体制がとれていない。
- ・子どもたちの人間関係の希薄さを補うには人との関わりしかなく、地域との交流活動をしている。
- ・高校生が年間を通じて保育所、幼稚園、小学校に授業として出かけ、学んでいる高校がある。
- ・学校と地域相互のもっと深い理解が必要であり、力を寄せ合うべきである。(再)
- ・学校における総合的な学習の時間は、地域との結びつきを深めるいい機会である。
- ・学校が経営方針をしっかりと持ち、教育課程を十分整理した上で、支援ボランティアに来てもらえるなら大歓迎であり、そのためのシステムづくりが重要である。
- ・子どもたちが早い時期に好きなものを見つけ、将来の職業に繋がるための方策を考えたい。(再)

(地域)

- ・新しい地域力には、祭や行事など何かを始め、そこに人を巻き込んでいくことが重要ではないか。
- ・地域の教育力を阿波踊りといった徳島独特の強みと連動させることはできないか。
- ・地域教育力は、地域住民が伝統文化を伝承し尊重する中で、活性化し再生されるのではないか。
- ・すべての年齢層が中心となり、地域全体で取り組めるような行事ができれば素晴らしい。
- ・行事に参加した記憶が、地域のために頑張りたい気持ちに繋がる。こうした記憶をつくることが大事。
- ・一つの行事をきっかけにみんなが集まることで、大きな広がりを見せるのではないか。
- ・学校と地域相互のもっと深い理解が必要であり、力を寄せ合うべきである。(再)
- ・地域には、いいプログラムをコーディネートしてくれると活動できる人材はいる。
- ・地域のために頑張ろうというシルバー大学の人も、卒業後にその機会が与えられない現実があったが、友だち繋がりですべて終わることなく、うまくまとめられれば大きな力になる。
- ・学ばばかりで地域に貢献できない人たちを組織し、地域に定着させていく方策も考えるべき。
- ・事業を知る人を増やすことは、地域活動をしていく上でとても重要である。(再)
- ・地域のおじいさん、おばあさんに、学校とのパイプ役、連携役を担ってもらうことも重要と考える。
- ・地域をコーディネート・プロデュースし、将来ビジョンを描ける人材が地域、行政に不足している。(再)

- ・まちづくりには、産業興しと人づくりの2つのキーワードが最低限必要ではないか。(再)

(行政)

- ・公民館は生涯学習，社会教育を考える上で，地域になくってはならない施設である。
- ・何か始めようとする公民館主導となる。行政主導ではできず，行政の協力なしにはできない。
- ・昔と今の子どもたちのニーズには開きがある。時代のニーズに見合った公民館活動を考えるべき。
- ・豊かな気持ちの行政マンが，いろいろなことを自由に話し合える雰囲気から，素晴らしい地域づくりの発想が生まれてくる。
- ・行政のリーダーや公民館長には，地域教育力といった大きなテーマで地域を描く力が必要である。
- ・地域をコーディネート・プロデュースし，将来ビジョンを描ける人材が地域，行政に不足している。

(再)

- ・まちづくりには，産業興しと人づくりの2つのキーワードが最低限必要ではないか。(再)
- ・既存のコミュニティーの再構築や創設などにつながる社会教育の在り方を考える必要がある。
- ・市町村行政の広域化の中，小学校や公民館区域ぐらいの小さなコミュニティーを重要視すべき。
- ・社会教育団体が，行政に事業実施のお願いに行くと行政批判ととられる危惧もある。
- ・地域の中で活動を起こす上で，行政が受け入れてくれれば，以後の活動のやりやすさに繋がる。
- ・経験上，地域に貢献したいという思いを行政サイドに理解してもらうのにかなり時間を要するが，そうならないシステムづくりが必要に思う。
- ・市町村が事業実施を判断する前に，住民に対する事業説明会を開催するようお願いしてほしい。
- ・事業を知る人を増やすことは，地域活動をしていく上でとても重要である。(再)
- ・様々な事業を市町村職員が，地域住民のため，いかに利用するのかが地域活性化方策の一つである。
- ・県から市町村，市町村からボランティアグループ等へ情報がうまく浸透していないことが，今回の提言の柱立てになるのではないか。
- ・各種事業の情報が末端まで届いた場合における，実施状況を検証することも事業活動に組み入れることで徳島モデルとなりうる事業展開ができるのではないか。
- ・行政も予算がないから行事ができないではなく，予算のかからない行事を考えていく視点が大事。

- ・行政主導ではなく、行政はお手伝いをするくらいのスタンスで事業に向き合うことが大切である。
- ・県の人材養成講座も、地域リーダーが育つよう、内容見直しと新しいプログラムが必要と考える。
- ・指導者養成講座は、総合教育センターだけでなく県南や県西部でも実施して欲しい。

#### (活動)

- ・子どもも大人も行事に触れていない状況の中、コミュニケーションを図るのは難しい。
- ・指導者研修などでは、子どもに対して過保護、過干渉であり、指示待ち人間が多い。
- ・子どもたちに何かを与えていく活動では、子どもたちの力はつかない。
- ・一人遊びはできるが大勢で遊ぶことを知らない子どもたちに、大勢で遊べる状況をつくっていききたい。
- ・子どもたちの目線で物事を考えると同時に、自分の子どものおときはどうだったのかを考えること。
- ・世代間でつながることのできるシステムづくりを模索していききたい。
- ・ボランティアが見守る中、子どもが自由に、主体的に遊べるようになってきて、必然的に地域ボランティアとの関わりも増してきた。子どもも大人も主体的に何かに関わることはとても大切である。
- ・親に相談したり、話しにくい世代が、まちづくりの企画や話し合いをすることは有意義である。
- ・放課後子ども教室などが、子どもたちにとって家庭で少しでも家族の手助けができるような学習の場であれば素晴らしい。
- ・子どもたちと地域の関わりが希薄になったといわれる中、私たちが学校に足を運んで、子どもたちと会える場所と時間をつくっていく必要がある。

#### (全体的)

- ・行政と地域・学校との連携が問題であり、連携するには活動の中心となる人材が大切である。
- ・地域全体で学校や教員を支援するという目的を忘れずに、関係者が同じ方向性を持つべきである。